



福田 健吉

FUKUDA Kenichi

日本政策投資銀行
常務執行役員関西支店長

「おいでやすの心」と 「やってみなはれの精神」



14年ぶりの大坂での勤務となりました。東京に比べると、関西は職住近接かつ歴史や食文化も豊かで、住みやすく、とても快適です。数値化できないこの住みやすさをきちんとお伝えするのは難しいのですが。

日本全体が人口減少社会を迎えるなかで、ここ関西では、東京圏や東海よりも減少が早く進むことが予測されています。総人口では、2010年から2040年にかけて343万人、生産年齢人口でみると、390万人減少するとされています。関西から100万都市が3つもなくなってしまう計算ですから、危機感を持つべきでしょう。

安倍政権が最重要政策の一つとして掲げる「地方創生」では、東京一極集中の是正が課題の一つですが、そのなかで、関西が東京圏と並ぶ日本の双発エンジンとして機能するために、関西自身がどのような成長戦略を描くかが問われていると思います。私は関西の成長戦略を考えるうえで、「おいでやすの心」と「やってみなはれの精神」がキーワードになるとと考えています。

定住人口の減少が避けられないなかで、経済の下支えとして、インバウンド観光客を中心に関西の交流人口を増やすことが期待されます。そのキーワードとなるのが「おいでやすの心」です。関西には、豊かな観光資源や食文化がたくさんあります。また、24時間発着可能な関西国際空港を有していることや、羽田・成田と比べてアジアからのフライトが約1時間短いという利点もあります。このような強みを生かして、さらなる交流人口の増加をめざしていかなければなりません。

交流人口を増やすために必要なことはまず、長期的な視点で戦略を立てることです。目の前の「爆買い」に一喜一憂せず、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の、さらに先の2030年ごろを見据え、関西全体で、増加

するインバウンド観光客に対するインフラの整備など、受け入れ態勢を整え、彼らによる消費額を伸ばしていく目標を共有し、広域観光ルートなどをアピールしていかなければなりません。「関西はひとつひとつ」という言葉を耳にしますが、それぞれの観光地の個性も重要です。観光客目線での必要な連携はしつつ「和して同ぜず」の精神でそれぞれの魅力や多様性を高め合うことが重要です。

また、観光需要により恩恵を受ける産業が広がりを見せています。百貨店で高級品が多く売れたり、関西国際空港では突然ランドセルが売れたりと、モノづくりなどへの波及効果もみられ、産業として非常に裾野が広がっていくものとしてとらえるべきでしょう。

次に、関西の産業全般に対し、「質」の向上を期待したいと考えています。内需面では、定住人口の減少を受け、数量が減っていくわけですから、モノやサービスの付加価値を高める必要があります。また、新しい産業や商品をどのように創造していくかという観点では、「やってみなはれの精神」が大切です。関西には長寿企業やバイオニアとなる企業、さまざまな研究開発拠点が集積しています。新産業を創出する基盤を構築するためには、「知」と「知」の結合をはかるべく、オープン・イノベーションの推進、産学官連携、ダイバーシティの推進などがカギとなります。関西にはもともと創業マインドが豊かな土壤があるはずですから、今こそその精神を掘り起こしていくべきでしょう。

当行としては、金融機関としての立場で全国のさまざまな企業やプロジェクトに携わった経験を生かして、関経連の活動、そして関西の成長に少しでもお役に立てればと考えています。

(談)